別紙様式３

学校運営協議会　会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第８条第１項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

１　会 議 名　　岐山高等学校　学校運営協議会　（第１回）

２　開催日時　　令和６年5月２９日（水）　１４：００～１６：２０

３　開催場所　　岐山高等学校会議室
開催にあたり、委員による授業及び全校集会の参観を実施した

４　参 加 者

委　員	河崎　哲嗣	岐阜大学教育学部　数学教育講座　教授
	中川ひろみ	岐阜大学医学部　地域生涯発達看護学講座　教授
	石井　郁夫	長良東自治会連合会　会長
	内田　真樹	長良東民生委員　主任児童委員
	若井　悟	本校元同窓会長
	田中　博之	本校ＰＴＡ副会長
学 校 側	増田　泰志	校長
	溝下　肇	教頭
	舘　弘士	教頭
	川口　晋	教務部長
	有賀　浩樹	生徒支援部長
	小森　美穂	進路支援部長
	小島　隆史	教務副部長

５　会議の概要（協議事項）

（１）今年度の学校経営方針について

意見１：岐山高校理数科が続けてきた探究活動の成果は出てきている。この取り組みを継続するだけでなく、普通科の活動の中に広げていくことが重要である。
⇒普通科で行う探究活動も内容を深めているところである。今後は、探究活動を授業の中にどのように取り入れていくか、さらに検討を深めていきたい。

（２）本校における校則改訂等の生徒の自主性を育成する取組について

意見１：岐山高校の取組については、ただ生徒に自由を与えているのではなく、生徒の自主性を尊重した上での取組であり、非常に素晴らしいものである。（複数）

意見２：生徒を交えた意見交流会では、議論を深めていく中で、ただ単に自由を求める意見だけでなく、反対の意見や、反対の立場を踏まえた意見も出ていて、有意義な活動となっている。
⇒生徒が多様な意見を出してくれることに驚いている。多様な意見が交換出来て、生徒を交えて議論する意義があったと考える。

（３）本校生徒の卒業後の進路について

意見１：文系や理系の選択はどのような傾向があるか、また岐山高校特有な傾向はあるか。

⇒最近の傾向としては、資格が取れる医療系を希望する生徒が多い。またこの大学に行きたいという生徒ではなく、大学卒業後の進路を踏まえて大学選択をする生徒が増えてきたようである。医療系を希望する生徒が多いのは、本校に限った傾向ではなく、一般的な傾向であると言える。

意見２：大学入学後の進路等も踏まえて進路選択を行っているのは理想的である。岐山高校が長年取り組んできた、探究活動の成果が生かされた進路選択ができていると考える。

意見３：卒業生がどのような分野で活躍しているかを調べて、取りまとめていないか。社会で活躍している卒業生の進路講演会等も実施してほしい。

⇒学校として把握することは困難であり、担任の先生等が個人的な関係で把握することにとどまっている。同窓会の協力を得て社会で活躍している卒業生の講話を毎年実施しているが、今後も継続したい。

（４）本校におけるいじめ等の生徒指導上の問題について

意見１：生徒指導上の問題が大きくなる前に、学校全体で共有して、取り組む姿勢は高く評価できる。

⇒本校の方針として、迷惑行為があればいじめと認知して速やかにいじめ対策委員会を立ち上げ、組織として対応している。このため、いじめの認知件数は一定数発生しているが、重大事案につながることを防止できていると考える。

意見２：いじめの内容が幼稚化しているとのことであるが、大学でも同様の傾向がみられる。

⇒コロナ禍で対面での人間関係を構築する機会が少なかったことが原因の１つではないかと考えている。また規模の小さい小中学校から進学した生徒が、学校ではやった遊びを高校に持ち込むケースもある。生徒は悪いことをしたという意識が全くなく、指導すると素直に反省をして指導に従う。いろいろな機会を利用して生徒の成長や気づきを促していくことが重要であると考える。

（５）新入生アンケートの結果について

意見１：学習塾に通っている生徒が多いが、学習塾から学校の授業についての指摘や批判はないか。かつては公立高校の授業を批判する塾もあったが、現在では学校と塾とが理解しあうことも必要となり、高校の教員をしていた頃には、塾主催の高校説明会にも参加したことがある。本校ではどうか。

⇒本校で参加したことはないが、別の学校で参加したことはある。中学生の進路指導で塾の果たす役割が大きくなり、高校でも多くの生徒が塾に通っていることから、塾との連携は必要であり、学校説明会についても依頼があれば検討したい。

（６）第４次教育基本計画について

意見１：誰一人として取り残さない教育として、実際にオンライン授業等は行っているのか。

⇒「ほっとプレイス」という教室に入れない生徒の学校での居場所づくりや、オンライン授業を実施するための規約の作成、またその規約の運用方法などは準備中である。しかし、新学年が始まって間もないことから、今のところ実施には至っていない。対象となりうる生徒がいるので、もう少し課題の検討を深めて必要な支援をしていきたい。

（７）スクールミッションの作成について

意見１：学校がやらないといけないことが多く大変そうである。

意見２：教職員が岐山高校について十分に考えていることが理解できたため、これらの結果を踏まえて、スクールミッションの案を作成してほしい。

意見３：スクールミッションを検討する中で、生徒の意見を取り入れることはしないのか。

⇒スクールミッションは外部の意見を参考にして本校に期待される社会的役割を明らかにするものであるため、今のところ考えていないが、生徒の意見も参考にしながら案の作成を進めていきたい。

（8）学校評価アンケートについて

意見１：全般的に好意的な回答が多いが、分からないという回答も一定数ある。そのため、分からないと回答する保護者へのＰＲが重要である。

⇒学校の様子を理解してもらうため、今年度は学年集会などに保護者を招待し、学校を訪問する機会を増やしている。そのような機会を通して、学校への理解を深めてもらえることを期待している。

（9）ベトナム国クオック・ホック高校との姉妹校提携について

意見１：国際交流を行うことはすばらしいことである。ぜひ継続してほしいが、渡航費用は高額になるが、希望者はいるのか。

⇒研修旅行を通して生徒たちの成長が感じられる素晴らしい経験ができたと考える。金額は高額となるが、多くの生徒が参加を希望したため、昨年度は２年生のみで行い、１年生は今年度の参加とした。ベトナムもかなり物価が高くなっているが、希望者は集まると思われるので、今年度も継続して実施していきたい。

意見２：生徒だけでなく教員も学校の財産であり、教員が海外経験できれば、生徒への還元も可能となる。ぜひ、教員が海外経験できるような人への投資も進めてほしい。

⇒クオック・ホック高校との交流では、教員間の交流も深めることができた。今回の交流は日本語学科の生徒や教員が中心であったが、クオック・ホック高校は多様な人材を擁している。今後はさまざまな分野での交流を深めることで、様々な経験ができる機会を増やしていきたい。

６　会議のまとめ

・第１回学校運営協議会では、全委員より今年度の本校の学校経営計画を踏まえた学校運営基本方針について承認が得られた。
・スクールミッションの作成については、本校職員が検討した「岐山高校の社会的役割」や「本校が力を入れている取り組み」等について支持が得られた。今後は、得られた本校の姿をもとにスクールミッションの案を作成し、第２回学校運営協議会で提案する。その際、本校職員の意見だけでなく、生徒の意見を取り入れることが重要である。
・学校評価アンケートについては、評価項目について承認が得られた。今後は７月の保護者懇談会の機会を活用して実施し、第２回学校運営協議会で結果を報告する。